

7	
報告テーマ	多職種との連携で経管栄養から経口への過程 ～今はこんなに食べられます～
法人名・事業所名	社福) あそか会 特別養護老人ホーム塩浜ホーム
報告者	安達咲(介護職員)、大井加菜子(介護職員)、三宅康実(介護職員)

電話	03-5683-5571	FAX	03-5683-5575
事業所紹介	塩浜ホームの規模は、特養60床・ショートステイ10床と小規模ですが介護の根底である「利用者本位」の精神を大切に、地域に根差された高齢者福祉の拠点としてご利用者はもちろん地域の皆様方にもご支持いただける『大きな存在』を目指し日々努めております。		

【研究期間】2017年11月16日～現在まで	
【研究前の内容】	
対象者：K氏 女性 67歳 要介護5	
既往：脳梗塞、脳出血の後遺症による嚥下障害にて、経口摂取禁止。2015年1月より胃瘻造設。造設後、当ホームへ入所(2017年6月入所)までの約2年半、経口からの食事摂取は行っておらず。入所数日後に飴を他者から貰おうとしたヒヤリハットが発生。	
本人より口から食べたいと意思表示あり、訪問歯科医師(月1回訪問)協力のもと、経口摂取への取り組みに臨んだ。	
【具体的な取り組みの内容】	
2017.7.20～2017.10	1日1回 口腔体操を実施 RSSTの結果が悪い(30秒で1回)
2017.11～	RSSTの結果が3回出来た。
2017.12.～2017.10	1日1回ゼリー開始。週1～週5回まで摂取可能となった。
2018.11.8～	週1 昼食 全粥+のり佃煮提供開始となる。
2019.2.14～	週3 軟飯+極細食1品提供
2019.4.11～	毎昼食時 ハーフ食+プロッカゼリー提供
※RSST…反復唾液嚥下テスト(30秒で何回唾液を飲み込む事出来るかのテスト)高齢者は30秒で3回のみこむことが出来れば正常とされる。	
【結果】	
取り組みを開始した当初はRSSTの結果が悪く、中々経口摂取の許可が出ず、口腔体操のみ実施という期間も数か月続いた為、ご本人のモチベーションも低下する事もあった。	
しかし、職員が根気よく対応を行い、経口摂取が始まってからは、少しずつ食事の内容が変わり、ご本人の意欲の高まりを感じる事が出来た。	
歯科医師より、毎食摂取可能と評価を受けているが、ご本人は現状で満足している様子である。	
◆取り組んだ多職種の構成	
提携病院内科医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士、介護支援専門員、介護福祉士	
【考察】	
今回1名の経管栄養の方を対象に経口移行の取り組みを実施し、連携している病院の医師、歯科医院の協力の下、各職種が必要な支援を行うことによって、経口摂取に繋げる事が出来た。また、年齢も若いことでご本人の残存能力が残っており、いい結果に結びついたのではないかと。	